

2025年度 地域連携活動助成金 活動成果報告書

1 活動概要

活動団体名	建築・アーバンデザイン（佐々木宏幸）研究室
活動テーマ	地域連携による実証実験を通して獲得した成果と知見の 飯田市、千代田区、中野区との連携による実装
活動期間	2025年 4月 1日 ～ 2026年 2月 28日
主な活動場所	長野県飯田市、丸の内仲通り、中野区立中野四季の森公園
連携地域	長野県飯田市、松川町、阿智村、根羽村、平谷村 東京都千代田区、中野区
連携団体等	梓設計企画、(株)サンポール、大丸有エリアマネジメント協会（リガール）、東京建物(株)、長野県下伊那農業高校、(株)国際開発コンサルタンツ、(株)三菱地所設計、(株)humorous、(同)nom など
活動者数	22名 ※ 活動に参加した本大学の教職員及び学生の人数を入力してください。

2 活動概要 ※活動内容や活動成果は地域連携センターHP等で公表します。

活動目的（地域が抱える課題との関係や活動により期待される効果等、本活動が地域の課題解決や活性化につながる事が分かるように記入してください。）

スタート型：新しい地域連携活動を着想した背景、また必要性について記載してください。

ステップアップ型：「過年度の活動内容」を記載の上、今回の申請の「発展性」あるいは「応用内容」などを記載してください。※過年度の活動が無ければ記入不要です。

1. 全国における公共空間の利活用の現状と課題

近年、公共空間としての街路の重要性が認識され、既存の道路空間を歩行者や自転車による利用を重視した空間に転換する取り組みが世界各地で行われている。日本においても、2020年に国土交通省が「2040年、道路の景色が変わる」（<https://www.mlit.go.jp/road/vision/pdf/01.pdf>）において、車中心から人中心の道路空間のビジョンを掲げるなど、道路が単なる通行のための空間以上の可能性と役割を有することが認識され始めている。

しかし、道路空間の利活用の可能性が認識され始めている一方で、公共空間の利活用に向けた取り組みは未だ限定的であると言える。国土交通省の調査によると、2019年時点で、データの得られた894自治体のうち315自治体では民間団体等による道路空間の利活用がなされている一方で、残りの579自治体では道路空間の利活用に向けた取り組みはまだなされていない（<https://www.mlit.go.jp/toshi/common/010000001.pdf>）。したがってこの「公共空間の利利用率の低さ」は、将来のより豊かな公共空間の実現に際しての重要な課題であると言える。

2. 課題に対する研究室のアプローチ

この課題に対し建築・アーバンデザイン研究室（以下、研究室）は2017年以来、**産学官民を超えた多様な主体を巻き込みながら、将来の公共空間の利活用の新たな可能性を検証する活動**に継続して取り組んでいる。この活動は、下記に示す実践と検証からなる段階的な展開を見据えた取り組みである（図1）。

1. 複数のフィールドにおける実証実験の実施
2. 実施した各実証実験の実験結果の検証と知見の獲得
3. 多様なフィールドでの成果の実装
4. 他の地域でのさらなる展開

これらの段階的な取り組みのうち、過年度は「1. 複数のフィールドにおける実証実験の実施」に主軸を置く活動に取り組んだ。具体的には、①丸の内仲通り②中野四季の森公園③長野県飯田市④中央通りの計4箇所にて実証実験を実施し、公共空間の利活用の可能性を検証した。これらの取り組みの詳細は後述する。

それらを踏まえて今年度は「2. 実施した各実証実験の実験結果の検証と知見の獲得」「3. 多様なフィールドでの成果の実装」に焦点を当てた活動に取り組む、公共空間の利活用の可能性を探求し、さらには実装することを計画している。

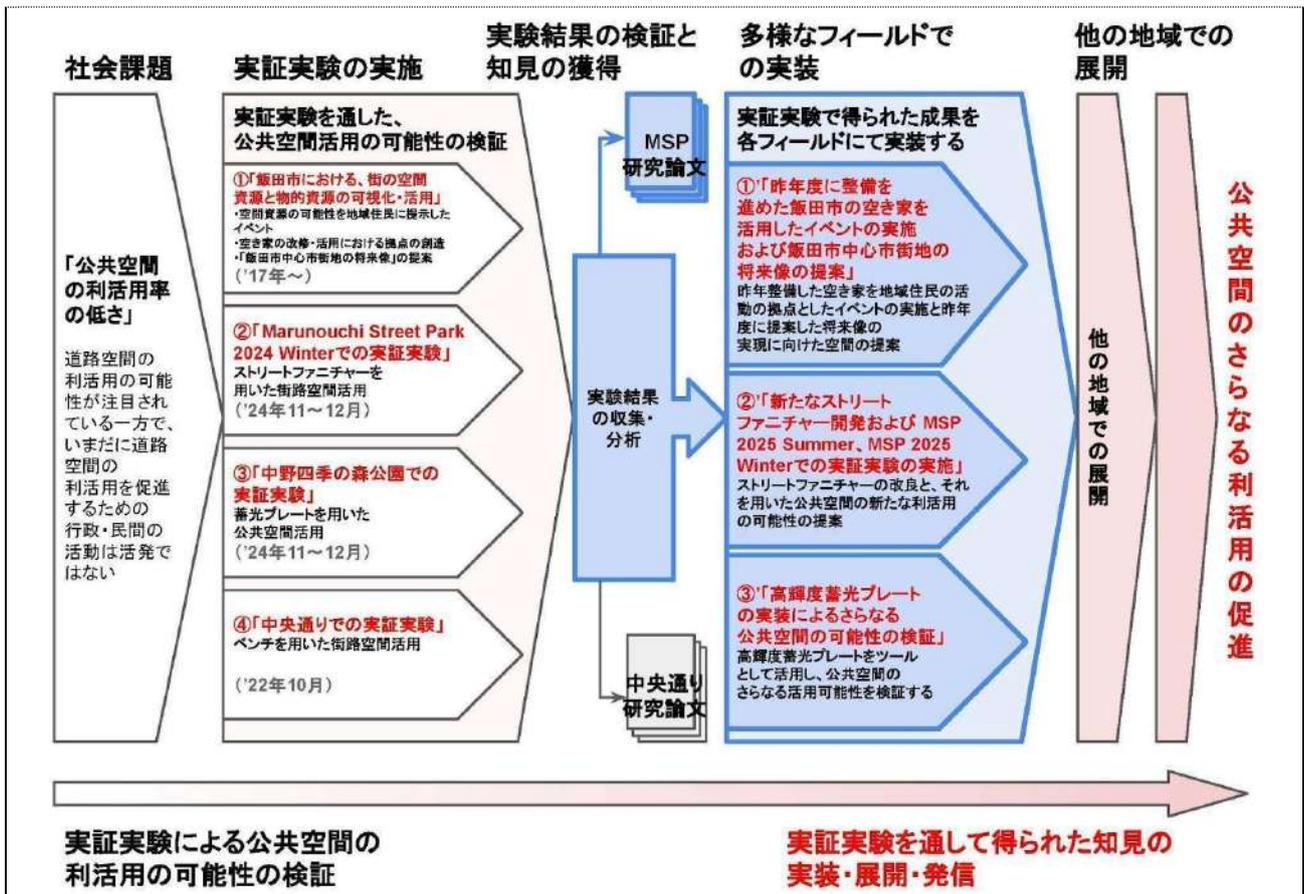


図1 活動全体像（青枠内が今年度の活動に当たる）

3. 研究室の過年度の取り組み

過年度の取り組みの詳細を下記の通り示す。

①飯田市における、街の空間資源と物的資源の可視化・活用

地域固有の空間資源や物的資源の活用とそれらの可能性の可視化を通して、地方都市における公共空間の活用の可能性の検証を行った。その具体的な取り組みとして下記の3つの活動に取り組んだ。

1. 空間資源の可能性を地域住民に提示したイベントの開催

研究室は飯田市中心市街地橋南地区にある空間資源「裏界線」に着目し、飯田市や地元のまちづくり関係者と協力しながら裏界線を活用したイベントを合計3回行った(図2)。また、2018年度には裏界線沿いの空き家の活用方法や飯田市中心市街地の空間的将来像の提案を通して当該地域の課題と可能性を提示した(図3)。コロナ禍を経て2021年度からは中心市街地の歴史的地区である橋北地区にも活動を広げ、橋南地区での活動で築いた人脈を活かしながら活動している。春草通り沿いの空間資源の活用可能性を示すイベント「春創てらす」(図4)、旧飯田測候所に焦点を当てた「光のてらす」(図5)を各2回開催した。これらのイベントは飯田市中心市街地に存在する独自の空間資源や物的資源が持つ可能性並びに活用事例を発信するための活動として行い、イベントに訪れた人々からも高く評価された。



図 2



図 3



図 4



図 5



図 6

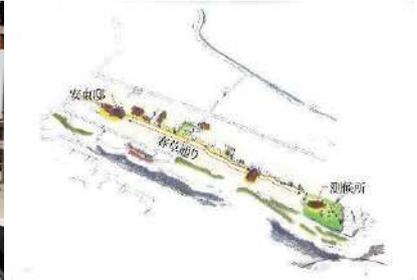


図 7

図 2 裏界線でのイベントの 1 つ「裏界線小路」の様子

図 3 研究室が作成した提案「星雲の丘」

図 4 春草通り沿いでのイベント「春創てらす」の様子

図 5 旧飯田測候所でのイベント「光のてらす」の様子

図 6 旧飯田測候所の活用方法に関する、地元住人に向けたプレゼンの様子

図 7 春草通り

2. 空き家の改修・活用における拠点の創造

2023 年より、飯田市橋北地区春草通りに面する空き家の『安東邸はなれ』の片付け・改修を、家主の安東氏、飯田市、地元大工の神谷氏と連携し実施した(図 8～10)。

これは春草通りや周辺市街地を含めた、地域の新たな文化発信・活動の拠点を創出するための活動として位置付けられる。2024 年 6 月の段階で片付け・改修作業を終え、地域の文化発信・活動拠点としての活用の可能性を実際に地域住民に示すことを目指し、その後 2024 年 10 月には(同)nom 代表 折山尚美氏と協働し、建屋や地域の歴史を市民に公開展示するイベントを開催した(図 11)。このイベントには地域住民をはじめとして合計 241 人が訪れた。イベントを通じて地域住民に行ったアンケート(全 81 件)では安東邸はなれについて「歴史ある建物の良さを残しつつ明るい空間へと変化してきていると感じた」「飯田市の古い建物が今回のイベントのように新たに活用され、飯田市の活性化につながってほしいと感じた」等の意見が寄せられるなど、地域の活動拠点としての可能性、そして春草通りをはじめとする公共空間のさらなる利活用のための拠点としての可能性が明らかになる結果となった。



図 8



図 9



図 10



図 11

- 図 8 安東邸はなれの片付けの際の様子
- 図 9 地元大工の神谷氏との打ち合わせの様子
- 図 10 安東邸はなれの解体の際の様子
- 図 11 安東邸はなれでのイベント「集い、語り、愛で、てらす」の様子

3. 「飯田市中心市街地の将来像」の提案

2024 年度には、飯田市におけるリニア新駅開業(2031 年度開業予定)に向けた「飯田市中心市街地の将来像」の提案を行った。

本将来像の提案ではモビリティの変化(図 12)や都市機能の分散(図 13)からなる「移動」が飯田市中心市街地を大きく変化させるとの視点から、中心市街地に分散する地域資源の「地域の活動の拠点」としての機能の強化、ならびに地域内の回遊性の向上や地域住民の交流を促進するハブの創出を実現するための地域の将来像の提案を行った(図 14、15)。

本将来像の提案により、下記の 2 点が期待される。

1. 飯田市中心市街地に多く存在している歴史的価値がありながらも低未利用な空間資源の活用の促進
2. 現在の飯田市中心市街地主要な拠点となっている飯田駅だけではなく、市街地への新たな交通・交流の拠点の創出

今年度は本提案をもう一段階具体化し、「本将来像を実現するための空間づくり」に焦点を当てた活動に取り組む。具体的には飯田市中心市街地のうち特に、①橋北地区②りんご並木③新たなハブとその周辺地区の空間づくりに関する具体的な提案を行う予定である。

「移動」の変容 A: ひとびとが都市を移動する手段の変化

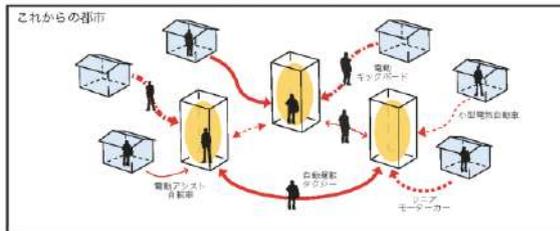


図 12

「移動」の変容 B: 都市を移動する主体の変化

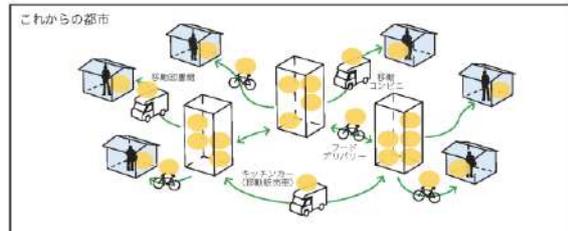


図 13

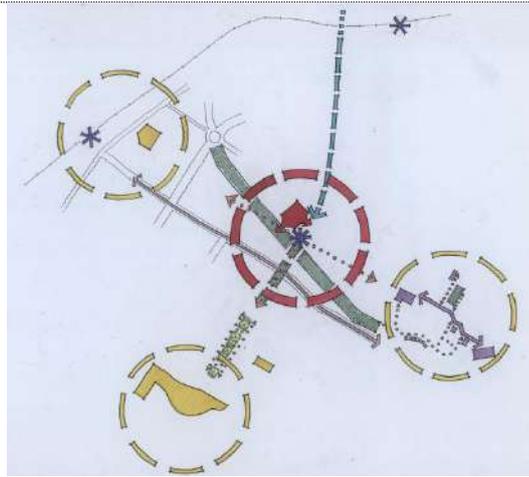


図 14

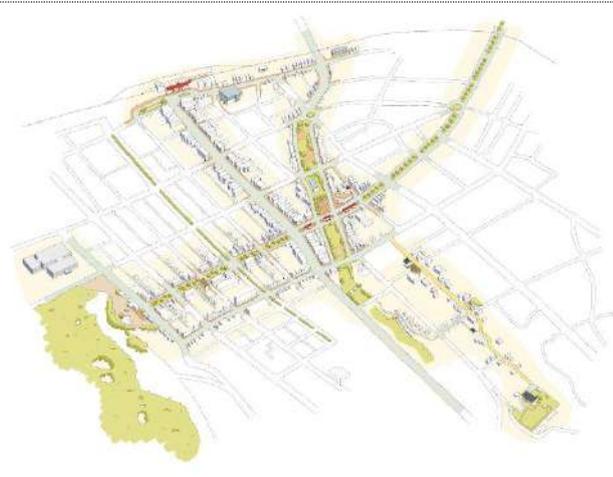


図 15

図 12 都市のモビリティの変化を表したダイアグラム

図 13 都市機能の分散を表したダイアグラム

図 14 飯田市中心市街地の将来的な都市構造を示す図

図 15 飯田市中心市街地の将来的な全体像を表す図

②Marunouchi Street Park 2024 Winter での実証実験

2024年11月14日～12月25日に丸の内仲通りで実施された『Marunouchi Street Park 2024 Winter』（以下、MSP 2024 Winter）にて、民間企業と共同で製作したストリートファニチャーを用いた街路空間の利活用の可能性を探求する実証実験を実施した。

昨年2月より研究室、(株)三菱地所設計、(株)サンポールの共同で発足した本プロジェクトでは、(株)サンポールから研究委託され、既存のストリートファニチャーを活用し新たな「ひとの居場所」を創出し、公共空間の利活用の新たな可能性を検証することを目標としている。

昨年2月から「ひとの居場所」を生み出す新たなストリートファニチャーの開発を開始し、共同の企業と打ち合わせを重ね、昨年6月に「**ボードに後付けできるカウンター**」の試作品を作成。明治大学生田キャンパス中央校舎前、A館横、中央広場の計3箇所に設置し、その利用者の利用動向とアンケート調査からなる予備実験を合計4日間実施した（図16～19）。この実験では**合計41人のカウンターの利用、そして39件のアンケート**をとることができた。

この大学キャンパスでの予備実験で得た知見を活用し、昨年11月に**ボードに後付けできるカウンター**としての『**ボラサイト**』を開発（図20）。昨年11月～12月に実施された丸の内仲通りでのイベント『MSP 2024 Winter』内にボラサイトを合計14基設置し、一般の来訪者がカウンターを利用する様子の定点観察および利用者へのインタビュー調査を実施し、製品の有効性と課題、製品の特性と日常性、製品の恒久設置に向けた課題を明らかにした（図21～24）。合計7日間調査を実施し、その結果**合計1,002人の来街者がボラサイトを利用し、267組のカウンター利用者にインタビュー調査を実施**した。それらの調査を通し下記の3点が明らかになった。

1. 公共空間における、日常的な活動の「**拠り所**」への需要は十分に存在すること
2. その中でも「**止まり木的**」なごく短時間の利用のための需要が多く存在すること
3. イベント内での調査では**あったものの飲食、PC作業**といった日常的な利用も多く見られたこと

本実証実験に関しては研究室、(株)三菱地所設計、(株)サンポールの共同でプレスリリースを出し、近代建築にも掲載された（図25、26）。

今後は本実証実験で得られた知見を基に製品のブラッシュアップを共同で行うとともに、今年度に

実施される『Marunouchi Street Park 2025 Summer』（以下、MSP 2025 Summer）および『Marunouchi Street Park 2025 Winter』（以下、MSP 2025 Winter）にも製品を設置し、さらなる街路空間の利活用の可能性の探求を目指す。



図 16



図 17



図 18



図 19



図 20



図 21



図 22



図 23



図 24



図 25

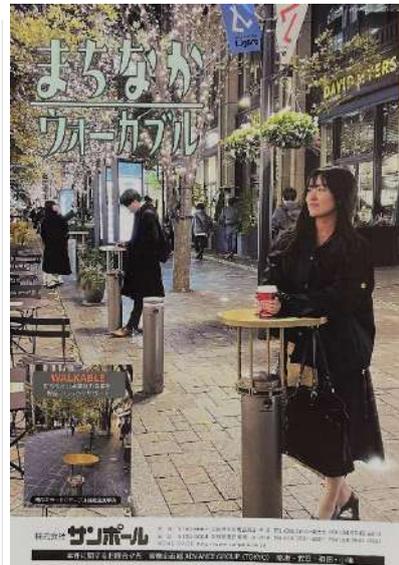


図 26

図 16 製品開発に向けた共同企業との打ち合わせの様子

図 17 カウンターモックアップ

図 18 生田キャンパスに設置した様子

図 19 学生によるインタビューの様子

図 20 製作したカウンター『ボラサイト』

図 21 大丸有エリアマネジメント協会（リガーレ）との打ち合わせの様子

図 22 『ボラサイト』の設置作業の様子

図 23 『ボラサイト』を利用する来街者

図 24 学生によるインタビューの様子

図 25 企業と共同で発表したプレスリリース

図 26 『近代建築』に掲載された広告

③中野四季の森公園での蓄光プレートを用いた実証実験

2024年11月14日～12月16日に、中野四季の森公園にて高輝度蓄光ツールを使用した実証実験を実施した。

本実証実験は、研究室、(株)humorous、東京建物(株)、中野区による産学官連携の共同プロジェクトとして実施された。

本実験は、防災モデル公園として位置付けられる中野四季の森公園における、芝生養生期間中に設置される立ち入り禁止ロープの夜間視認性の低下により、躓き・転倒といった事故が発生している課題に対し、**高輝度蓄光ツール『ナイトコンシェルジュ®』**(図 27、28)を活用することで、夜間の安全性向上と景観保護の両立を図ることを目的としたものである。この活動では「**人々の行動を規制するのではなく“エスコート”する**」という理念のもと、単なる立ち入り禁止措置ではなく、利用者の行動を自然に誘発するデザイン的アプローチを目指し、**クローバーの形状に加工したナイトコンシェルジュ**を公園の芝生養生区画に沿って設置し、それに対する通行人の行動・心理変容を調査するための定点観察調査およびインタビュー調査を実施した(図 29～33)。これらの調査により、以下の3点が明らかになった。

1. 公共空間における「エスコート」の重要性およびそれに対する需要が確かに存在すること
2. 夜間の安全確保に向けた蓄光ユニットの有効性と防災対策としての活用可能性の高さ
3. 「経験知」(特定の知識や慣れに対する個々人の差異)が人々の行動や心理に大きな影響を与えること

本実証実験で得られた知見は、今後の公共空間のあり方を考えるうえで重要な示唆となるとともに、中野四季の森公園での高輝度蓄光ツールの恒久的な活用や、飯田市をはじめとした他地域への展開にも活かしていく予定である。



図 27



図 28



図 29

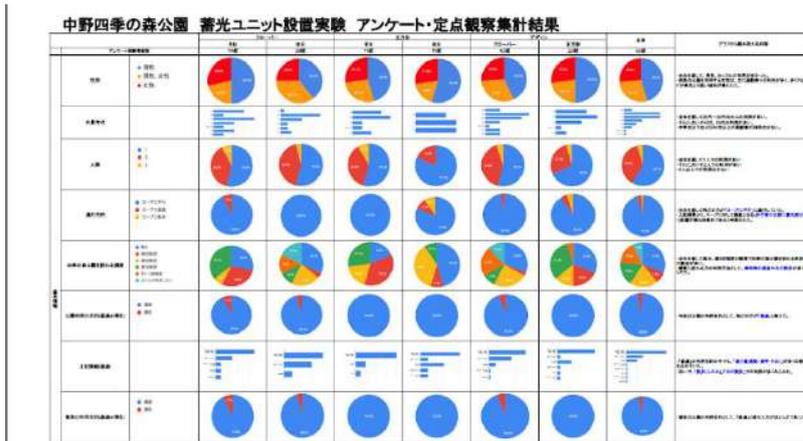


図 32

図 30

図 31



図 33

- 図 27 高輝度蓄光ツール「ナイトコンシェルジュ®」
- 図 28 クローバーの形状に加工したナイトコンシェルジュ
- 図 29 中野四季の森公園に設置したナイトコンシェルジュ
- 図 30 学生によるインタビューの様子 1
- 図 31 学生によるインタビューの様子 2
- 図 32 実証実験の結果・集計シート
- 図 33 実証実験のプレスリリース

④中央通りにおける、ベンチの利活用に関する実証実験

2022年10月12日、15日、23日に中央通り（国道15号）にて、将来的な通りの歩道空間へのベンチの設置に向けて、ベンチの利用傾向を調査する実証実験を実施した。

本実証実験は研究室、NPO 法人はな街道、東京建物(株)、(株)国際開発コンサルタンツ（IDEC）の共同で実施した。この実証実験では、立地環境(店舗前、公開空地前、バス停近く等)、歩行条件(歩行の速度等)、利用者の属性(性別、年齢、荷物の有無等)によるベンチの利用傾向を把握することを目的とした。

本実証実験ではベンチを中央通り沿いの合計6箇所に設置し、定点観察調査およびインタビュー調査を実施した(図34~36)。その結果、本実験の3日間を通して、合計732組の来街者のベンチ利用が観察でき、そのうち合計508組のベンチ利用者にインタビュー調査を行うことができた。これらの調査・分析を行い、下記の4点が明らかになった(図37)。

1. 現在は歩行者の通行の用途でしか利活用がされていない中央通りの歩行空間が、ベンチを設置することにより来街者の滞留の空間としての機能も果たすこと
2. 歩行空間における滞留のスペースへの需要は充分に存在すること
3. ベンチの設置の仕方・設置場所が来街者の利用のされ方に影響すること
4. 実証実験の計画・実施への知見

本実証実験の様子はネットニュースなどで取り上げられた(図38)。

また本実証実験の結果は、2月20日、シティラボ東京にて開催された「東京駅前 八重洲・日本橋・京橋から始まるウォーカブルなまちづくり ~さくら通り、中央通りにおける取組事例の成果発表~」にてプレゼンを行い、「歩道上のベンチ設置がまちづくりにどのように寄与するか」を提示し

た (図 39)。

本実証実験で得られた知見は、後の丸の内仲通りや中野四季の森公園での実証実験にも活用し、さらなる研究の発展に繋げた。またこの実験結果は研究室と㈱国際開発コンサルタンツの2者の共同で論文にまとめ、近々都市計画学会に投稿する。



図 34



図 35



図 36

東京都中央区の「中央通り」でちょっと休憩、歩道にベンチを設置する検証実験

2022年11月19日 12:00:00

この街並と歩道空間は、東京都中央区「中央通り」歩道の一部にベンチを設置する検証実験を開始した。期間は11月13日まで予定。検証実験は中央区の自由上で初の取り組みで、銀座～京橋・八重洲～日本橋・豊洲地区における歩行者の満足度を高めることを目的としている。設置することになれば、少し休憩するのに便利というといえそうだ。



豊田 大

ベンチ設置場所は、「東京スタジアムガーデン前」「美術館ビル前」「京橋モーターランド前」「ミュージアムタワー前橋前」「日本橋区役所 S.C.本駅前」「日本橋区役所 S.C.新橋前」の6カ所。明治大学理工学部建築学部の佐々木憲実専任教授が主宰する建築・アーバンデザイン研究室との共同研究による。ベンチ利用状況観察、通行者インタビュー調査などやベンチ設置に対するニーズや課題を把握する。

BCNR

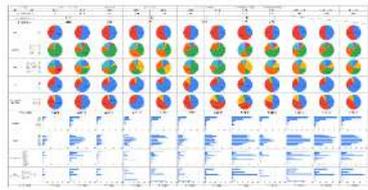


図 37



図 39

- 図 34 設置したベンチの写真
- 図 35 実証実験開始のお披露目会
- 図 36 学生によるインタビューの様子
- 図 37 実証実験の結果の集計シート
- 図 38 掲載されたネットニュース記事
- 図 39 学生によるプレゼンの様子

活動計画 (活動目的を達成するための具体的な計画や方法、申請団体と連携地域・団体等がそれぞれ担う役割、過年度の活動実績や次年度以降の継続性等について詳しくしてください。)

【本助成金が給付された場合】

今年度の活動では、過年度の実証実験やイベントの実施を通して得られた空き家、ボラサイト、蓄光プレートといった多様な資源を各フィールドにおいて実装し、公共空間の利活用の可能性を広げ、それを社会に発信することに焦点を当てる。具体的には、下記の3つの取り組みを計画している

- ①' 昨年度に整備を進めた飯田市の空き家を活用したイベントの実施および飯田市中心市街地の将来像の提案
- ②' ボラサイトのデザインの改善による新たなストリートファニチャーの開発と、丸の内仲通りでの実証実験を通じたさらなる検証
- ③' 高輝度蓄光プレートの実装によるさらなる公共空間の可能性の検証

それらの具体的な活動目標・内容を下記の通り示す。

①' 昨年度に整備を進めた飯田市の空き家を活用したイベントの実施および飯田市中心市街地の将来像の提案

今年度は、過年度に整備を進めた飯田市の空き家『安東邸はなれ』を展示空間としてのアイデンテ

イティを確立させながら、地域住民の活動の拠点として活用し、**公共空間も含めた地域全体の賑わい創出を試みる活動**に取り組む。

2025 年度より飯田市橋北地区春草通り沿いにある旧飯田市測候所が指定管理施設となり、(同)nom が運営する。これをきっかけに、春草通りの両端に位置する旧飯田市測候所、安東邸はなれを中心市街地の2拠点として位置づけ、飯田市周辺を拠点に活動されている方々も巻き込みながら複数回にわたってイベントを実施する。これらのイベントは**歴史/サステナブル/建築・ランドスケープをそれぞれテーマとした計3回の実施**を想定しており、旧飯田市測候所と安東邸はなれのアイデンティティを確立させ、春草通りの面的な賑わい創出に向けた活用の実例として地域に発信する。これら2拠点の連携した春草通りの活用を通して、地方都市における空間資源の可能性を地域住民に提示し、公共空間の活用方法について知見を深める。

またこの活動と並行して、昨年度の「飯田市中心市街地の将来像」をさらに具体化するかたちで、**①橋北地区②りんご並木③新たなハブとその周辺地区の3つのエリアの具体的な空間づくりにつながる具体案を示す「飯田市中心市街地の将来像」**を提案する。また今年度の活動では、上記の安東邸はなれおよび旧飯田市測候所で開催されるイベントにて、地域住民から地域の将来像に対するフィードバックをいただき、それらを提案に反映させることで、より地域住民の声を反映した将来像の提案を目指す。

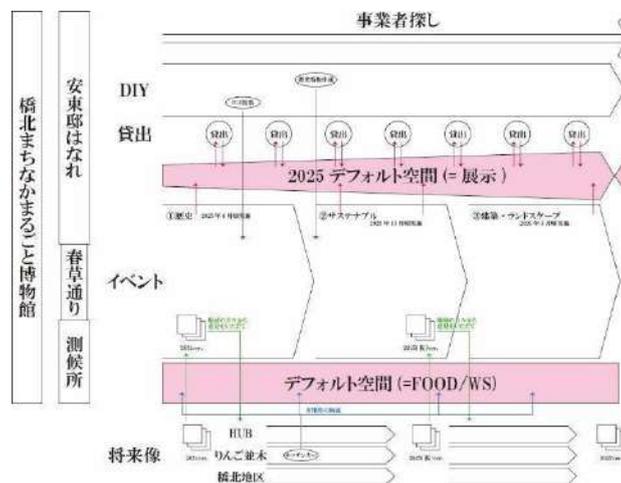


図 40 今年度の活動の概略

<役割>

活動における各団体の役割を下記の通り示す。

研究室：飯田市中心市街地の将来像の提案、春草通りにおける空間資源の活用方法の提案を行う

折山氏：安東邸はなれ、測候所の活用にあたって研究室と共に活動に取り組む

篠田氏：安東邸はなれ、測候所の空間活用について研究室と共に検討を行う

信州大学ランドスケープデザイン研究室：安東邸はなれならびに測候所で実施予定のイベントの第1回(6月実施予定)と第3回(3月実施予定)に参加する

飯田市：飯田市将来像の作成に関するアドバイスをを行う

②' 新たなストリートファニチャー開発およびMSP 2025 Summer、MSP 2025 Winterでの実証実験の実施

昨年度のMSP 2024 Winterでのボラサイトを用いた実証実験より、公共空間における短時間の日常的な活動の拠り所へのニーズの存在を確認することができた。その知見をさらに発展させるために、昨年度から引き続き(株)三菱地所設計、(株)サンポール、大丸有エリアマネジメント協会(リガーレ)などと共同で、今年度は下記の2つの活動に取り組む。

1. ボラサイトのデザインの改善による新たなストリートファニチャーの開発
2. 今年度の夏と冬にそれぞれ実施される MSP 2025 Summer と MSP 2025 Winter へのボラサイトの設置による、公共空間の利活用の可能性のさらなる検証

これらの2つの取り組みの詳細を下記の通り示す。

1. ボラサイトのデザインの改善による新たなストリートファニチャーの開発

昨年度の MSP 2024 Winter での実証実験により、公共空間に設置された、用途を限定しすぎないカウンターへのニーズは確認できた。その一方で、物を置くカウンターとしての用途だけではなく、何気なく寄りかかる用途や、何気なく抛り所にしたくなるような用途など、公共空間の利活用をさらに豊かなものとするためのさらなる改善点が明らかとなった。

これらの改善点を踏まえて、公共空間の抛り所としてのボラサイトの機能の充足、あるいはボラサイトに無い機能の追加との視点から新たなストリートファニチャーの開発に取り組む。

2. 今年度の夏と冬にそれぞれ実施される MSP 2025 Summer と MSP 2025 Winter へのボラサイトの設置による、公共空間の利活用の可能性のさらなる検証

また今年度は、丸の内仲通りで実施される MSP 2025 Summer と MSP 2025 Winter の計2回のイベントにボラサイトを実装し、実証実験を行う。

昨年度からの検証内容の具体的な発展性は、ボラサイトを設置する周辺環境がボラサイトの利用動向へ及ぼす影響と、季節によって公共空間に求められる機能やニーズの変化の検証の2点である。

これらの検証のために、昨年度の MSP 2024 Winter は街の「回遊性」に焦点を当てた冬のイベントであった一方で MSP 2025 Summer は街中での「滞留」に焦点を当てた夏のイベントであることから、MSP 2025 Summer を今年度の最初の実証実験として位置付け、またそこで検証された内容からさらに知見を深めることを目的に MSP 2025 Winter でも実証実験を実施する。

<役割>

活動における各団体の役割を下記の通り示す。

研究室：ボラサイトのデザインの改善による新たなストリートファニチャーのデザイン提案、MSP で設置するプロダクトのデザイン提案、イベントの主旨に沿ったプロダクトを中心とする空間演出の提案

㈱三菱地所設計：プロダクトのデザイン、空間提案に関するアドバイス、リガーレとの調整

㈱サンポール：デザイン提案に関する技術面からのアドバイス、構造仕様書の作成、空間演出に関するアドバイス、プロダクトの製作

大丸有エリアマネジメント協会（リガーレ）：プロダクトのデザイン、空間演出、設置場所などと MSP の実施内容との整合性の確認

③' 高輝度蓄光プレートの実装によるさらなる公共空間の可能性の検証

昨年度の中野四季の森公園における高輝度蓄光ツール「ナイトコンシェルジュ®」を活用した実証実験より、公共空間における人々の行動・心理の「エスコート」の需要、及び防災対策としての蓄光ツールの可能性を確認することができた。これらの成果を踏まえ、今年度は以下の活動に注力する。

1. 中野四季の森公園における蓄光ツールの恒久的活用に向けた検討・実装 昨
 年度の成果を一過性の実験に留めることなく、イベント的な活用から恒久的な社会実装へと発展させる。実証実験を通じて得られた知見や利用者の声をもとに、夜間利用時の安全性や景観への影響に配慮した恒久的な設置に向け、具体的な課題整理と改善策の検討を行う。また、公園管理者や行政との調整を進め、恒久的実装を実現していく。
2. 長野県飯田市におけるイベントを通じた蓄光ツールの段階的実装 中
 野四季の森公園での取り組みをモデルケースとし、他の防災公園や長野県飯田市などの地域にお

いても、同様の蓄光ツールの活用に向けた提案と段階的な実装を行っていく。

3. **夜間に限らず、日中利用も想定したフレキシブルなデザインの検討** 防
 災対策としての機能に留まらず、日中も含めた多様な時間帯・利用シーンに応じたデザインのあり方について検討する。これにより、公共空間のさらなる利活用や居心地の良い空間づくりを目指す。

<役割>

活動における各団体の役割を下記の通り示す。

研究室：中野四季の森公園及び、他拠点に設置するプロダクトのデザインの提案、プロダクトを用いた空間演出の提案

(株)humorous：デザイン提案及び空間演出に関するアドバイス、プロダクトの制作

東京建物(株)：中野区との調整

=====
【本助成金が給付されない場合】

助成金が給付されない場合は、各フィールドにおける実装スケジュールの見直しが必要となるため、協力企業や自治体と調整を行う予定である。

活動スケジュール（実施した広報活動についてもご記入ください。）

- 例) 4月～6月：現状調査とヒアリング
 6月～7月：地域活性化のためのイベント計画、地域への提案づくり
 8月●●日：SNS、現地広報媒体でイベント掲載
 8月●●日：現地でのイベント実施
 10月●●日：活動の振り返り、次年度に向けた検討

① 昨年度に整備を進めた飯田市の空き家を活用したイベントの実施および飯田市中心市街地の将来像の提案

	昨年度に整備を進めた飯田市の空き家を活用したイベントの実施	飯田市中心市街地の将来像の提示
4月	・安東邸はなれ/測候所のアイデンティティ確立に向けたイベント「さとのてらす」年間計画の作成 ・安東邸はなれと測候所をリンクさせる足がかりとしてのロゴの検討	・2024年度の「飯田市中心市街地の将来像」の最終化
5月	・関係者との打ち合わせやDIYによる空間整備、広報活動などに向けた準備 ・第一回「さとのてらす」開催(5月31日)りてらすでの明治大学出張講座の実施	・橋北地区/りんご並木/新たなハブとその周辺地区の具体的な空間を主とする2025年度の「飯田市中心市街地の将来像」についての検討
6月	・第二回「さとのてらす」開催(6月21日~22日)りてらすでの明治大学出張講座の実施 さてらすでの飯田市丘の上写真展の実施 ・2024年度の「飯田市中心市街地の将来像」をイベントのコンテンツとして使用し、地域住民の方々へのヒアリングの実施	・橋北地区/りんご並木/新たなハブとその周辺地区の具体的な空間を主とする2025年度の「飯田市中心市街地の将来像」についての検討 ・「さとのてらす」での地域住民の方々へのヒアリングの実施
7月	・第三回「さとのてらす」開催(7月12日~13日)りてらすでの明治大学出張講座の実施 さてらすでの飯田市丘の上写真展の実施 ・関係者との打ち合わせやDIYによる空間整備、広報活動などの11月のイベントに向けた準備	・橋北地区/りんご並木/新たなハブとその周辺地区の具体的な空間を主とする2025年度の「飯田市中心市街地の将来像」についての検討 ・「さとのてらす」での地域住民の方々への

	<ul style="list-style-type: none"> ・安東邸はなれと測候所をリンクさせる足がかりとしてのロゴを使用した看板の製作 	のヒアリングの実施
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者との打ち合わせやDIYによる空間整備、広報活動などの11月のイベントに向けた準備 ・さてらすとりてらすをリンクさせる足がかりとしてのロゴを使用した看板の製作 	<ul style="list-style-type: none"> ・橋北地区/りんご並木/新たなハブとその周辺地区の具体的な空間を主とする 2025 年度の「飯田市中心市街地の将来像」についての検討
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者との打ち合わせやDIYによる空間整備、広報活動などの11月のイベントに向けた準備 ・安東邸はなれと測候所をリンクさせる足がかりとしてのロゴを使用した看板の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・橋北地区/りんご並木/新たなハブとその周辺地区の具体的な空間を主とする 2025 年度の「飯田市中心市街地の将来像」についての検討
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・第四回「さとりのでらす」開催(10月18日~19日)りてらすでの明治大学出張講座の実施 ・さてらすでの飯田市丘の上写真展の実施 ・関係者との打ち合わせやDIYによる空間整備、広報活動などの11月のイベントに向けた準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・橋北地区/りんご並木/新たなハブとその周辺地区の具体的な空間を主とする 2025 年度の「飯田市中心市街地の将来像」についての検討 ・りんご並木検討委員会による地域住民の方々へのヒアリングの実施(10月19日)
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・作成中の 2025 年度の「飯田市中心市街地の将来像」をイベントのコンテンツとして使用し、地域住民の方々へのヒアリングの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・橋北地区/りんご並木/新たなハブとその周辺地区の具体的な空間を主とする 2025 年度の「飯田市中心市街地の将来像」についての検討
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者との打ち合わせやDIYによる空間整備、広報活動などの3月のイベントに向けた準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・橋北地区/りんご並木/新たなハブとその周辺地区の具体的な空間を主とする 2025 年度の「飯田市中心市街地の将来像」についての検討
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者との打ち合わせやDIYによる空間整備、広報活動などの3月のイベントに向けた準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・橋北地区/りんご並木/新たなハブとその周辺地区の具体的な空間を主とする 2025 年度の「飯田市中心市街地の将来像」についての検討
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者との打ち合わせやDIYによる空間整備、広報活動などの3月のイベントに向けた準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・橋北地区/りんご並木/新たなハブとその周辺地区の具体的な空間を主とする 2025 年度の「飯田市中心市街地の将来像」の最終化
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・第四回「さとりのでらす」開催(3月21日~22日)さてらすでの飯田市丘の上写真展の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・橋北地区/りんご並木/新たなハブとその周辺地区の具体的な空間を主とする 2025 年度の「飯田市中心市街地の将来像」の最終化

②' ボラサイトのデザインの改善による新たなストリートファニチャーの開発と、丸の内仲通りでの実証実験を通じたさらなる検証

	新たなストリートファニチャー開発	MSP での実証実験
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・「MSP 2024 Winter」での実証実験が示すボラサイトの改善の方向性の整理 	<ul style="list-style-type: none"> ・実証実験の実施概要の検討 ・製作するプロダクトの概要の決定
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・1次試作のデザインの検討、モックアップの製作 	<ul style="list-style-type: none"> ・製作するプロダクトのデザインの検討、モックアップの製作 ・プロダクトの構造設計

		・実証実験の実施方法、質問事項の検討
6月	・1次試作のデザインの検討、モックアップの製作	・製作するプロダクトのデザインの決定 ・プロダクトの製作 ・実証実験の実施方法・質問事項の検討
7月	・1次試作の構造設計	・「MSP 2025 Summer」での実証実験の実施 ・実験結果のまとめと分析 ・次回実証実験の実施概要の検討
8月	・1次試作の製作	
9月	・1次試作の製作 ・製作した1次試作の改善点の整理	・実験結果のまとめと分析 ・製作するプロダクトの概要の決定 ・製作するプロダクトのデザインの検討、モックアップの製作 ・実証実験の実施方法、質問事項の検討
10月	・改善点を踏まえたデザインの検討、モックアップの製作	・プロダクトの構造設計 ・プロダクトの製作 ・実証実験の実施方法、質問事項の検討
11月	・改善点を踏まえたデザインの検討、モックアップの製作	・「MSP 2025 Winter」での実証実験の実施 ・実験結果のまとめと分析
12月	・製品仕様の最終化	
1月	・製品の構造設計	・実験結果のまとめと分析
2月	・製品の製作	・実験結果のまとめと分析 ・次年度の活動の方向性の調整

③' 高輝度蓄光プレートの実装によるさらなる公共空間の可能性の検証

	中野四季の森公園・他防災公園での実装	飯田市での実装
4月	・プロダクトデザインの検討 ・モックアップの作成(中野四季の森公園)	・プロダクトデザインの検討 ・モックアップの作成(安東邸はなれ・旧飯田測候所)
5月	・プロダクトデザインの検討(中野四季の森公園) ・モックアップの作成(中野四季の森公園)	・プロダクトのデザインの決定 ・プロダクトの製作(安東邸はなれ・旧飯田測候所) ・プロダクトの設置(安東邸はなれ・旧飯田測候所)
6月	・humorous と の 調 整 ・中野区との調整	・プロダクト設置後経過観察
7月	・中野区との調整	・プロダクト設置後経過観察
8月	・中野区との調整	・プロダクト設置後経過観察
9月	・中野区との調整	・現地調査、分析(春草通り・旧飯田測候所) ・空間演出の企画、検討(春草通り)

10月	-----	・現地調査、分析（春草通り） ・地元企業への交渉（春草通り）
11月	-----	・飯田市との調整（春草通り） ・空間演出の検討、調整（春草通り）
12月	-----	・橋北地区まちづくり協議会との協議 ・地元企業との調整（春草通り）
1月	-----	・橋北地区まちづくり協議会との調整
2月	・次年度の活動の方向性の調整	・次年度の活動の方向性の調整

■

活動成果

今年度は以下①'～③'の3つの取り組みを通して、公共空間の利活用の可能性の探求および実装を行った。

①' 昨年度に整備を進めた飯田市の空き家を活用したイベントの実施および飯田市中心市街地の将来像の提案

今年度は、昨年度に整備を進めた飯田市の空き家を活用したイベント「さとりのてらす」の実施および飯田市中心市街地の将来像の提案を行った。

2つの活動を通して、空き家を地域住民の活動の拠点として活用し、公共空間も含めた地域全体の賑わい創出に貢献した。

1. 昨年度に整備を進めた飯田市の空き家を活用したイベント「さとりのてらす」の実施

春草通りの両端に位置する安東邸はなれ「さてらす」、旧飯田市測候所「りてらす」を中心市街地の2拠点として位置づけ、春草通りの面的な賑わい創出に向けたイベント「さとりのてらす」を1年間を通して計4回実施した。「りてらす」は、明治大学出張講座を通して知の拠点として、「さてらす」は、飯田市丘の上写真展を通して展示空間としてのアイデンティティを確立させ、それぞれの活用の実例を地域に発信した。

「さとりのてらす」の各回の概要を下記の通り示す。

(1) 第一回さとりのてらす（'25年5月31日）

[りてらす]

・明治大学出張講座：「ストリートデザインの可能性」
佐々木宏幸教授が、「見過ごされがちな街路デザイン」について講義を行った(図41)。

(2) 第二回さとりのてらす（'25年6月21日～22日）

[さてらす]

・飯田市丘の上写真展：「語り継がれる丘の上」-風景が紡ぐ記憶と未来-
丘の上の過去・現在・未来の姿をそれぞれの風景を通して感じる写真展を開催した(図42, 図43)。

[りてらす]

・明治大学出張講座：「丘の上の将来像」
修士2年の宮武杏香が、昨年度検討した丘の上の将来像について講義を行い、32人の住民の方と意見交換を行った(図44)。

(3) 第三回さとりのてらす（'25年7月12日～13日）

[さてらす]

・飯田市丘の上写真展：「語り継がれる丘の上」-風景が紡ぐ記憶と未来-

第二回と同様の内容で写真展を開いた。

[りてらす]

・明治大学出張講座：「ONLY：鹿にしか、竹にだけ 地域資源の新しい可能性」
修士2年の石川優希が、見過ごされた地域資源の「竹」と「鹿皮」にスポットを当て、研究室と地域の方が協力して取り組んだ活動について講義を行った。

(4) 第四回さとりのでらす（'25年10月18日～19日）

[さてらす]

・飯田市丘の上写真展：「春草愛（AI）-テクノロジーと描く菱田春草の世界-」
8月に集めた作品を展示し、AIの面白さを地域の方が描く春草愛を通して感じる作品展を開催した。その場でAI作品が作成できるワークショップも同時に実施した(図44)。

[りてらす]

・菱田春草×AIワークショップ（'25年8月30日）
「春草らしさ×地元の風景」をテーマにAIを使ったアート作品の製作を鶴名山氏協力のもと実施した。

- ・明治大学出張講座：1「フィールドから社会へ」-飯田で育てた未来-
2「安東邸はなれ『さてらす』」-閉ざされた空き家から開かれたテラスへ-
- 1 本研究室OB青木風さんを招き、研究室での飯田の取り組みが社会の中でどのように活かされているのかを講義した(図45)。
 - 2 修士1年座間幹子が、空き家だった状態から長年の改修を経て、現在皆様に活用いただける段階となった歴史的建築物「安東邸はなれ」の価値や可能性について講義した。

4) 第五回さとりのでらす（'26年3月21日～22日）

[さてらす]

・飯田創造館展：「創造のしじま、記憶のはじまり」
写真家の篠田優氏による、昨年3月に閉館した長野県飯田創造館の写真を展示する。

[その他]

・シンポジウム
信州大学ランドスケープ研究室が主催するシンポジウムにて、今後の飯田の将来像に向けたアクションについて、住民・飯田市職員へ発表、パネルディスカッションを行う。

以上の活動を通して、春草通りを含めた橋北地区全体の賑わい創出に向けた地域の方々からのご意見を得た。

今後もさてらすの改修・DIYやイベントの実施を通して、「さてらす」の地域拠点としての可能性を地域住民に提示するとともに、「さてらす」の拠点とした公共空間の賑わい創出を図る。

シンポジウムを通して、住民・飯田市職員への発表、パネルディスカッションを行う。



図 41



図 42



図 43



図 44



図 45



図 46

図 41 第一回さとのてらす 明治大学出張講座

図 42 第二回さとのてらす 飯田市丘の上写真展 さてらす 2 階

図 43 第二回さとのてらす 飯田市丘の上写真展 さてらす 1 階

図 44 第二回さとのてらす 明治大学出張講座

図 45 第三回さとのてらす 飯田市丘の上写真展 ワークショップの様子

図 46 第三回さとのてらす 明治大学出張講座

2. 「飯田市中心市街地の将来像」の実現に向けた提案

本将来像は、飯田市におけるリニア新駅開業(2031 年度開業予定)に向けて、面的に一体化された一体的で面的広がりを持つ公共空間の歩行者による賑わい豊かな丘の上の基盤構築を目標としている。今年度は、2024 年度に提案を行った「飯田市中心市街地の将来像」を実現するための具体的な空間提案の作成に取り組んだ。

今年度は、下記の 2 つの活動に取り組んだ。

1 リンゴ並木、リニアとつながる交通の結節点における具体的なデザイン提案

- ・ Matterport を利用した現地調査を行った。
- ・ 現地調査を元にダイアグラム、断面図を作成した。(図 47, 図 48)

2 地域の方への説明、意見交換の実施

- ・ 6 月に宮武が「さとのてらす」にて、昨年度の将来像を講義し、意見交換を行った。
- ・ 10 月にりんご並木検討委員会をはじめとした地域の方約 20 名と意見交換を行った。(図 49)

具体的な空間提案と、それに対する地域住民からのご意見を通して、より実現性の高い公共空間の提案を進めることができた。

今後は、今年度作成した空間提案の実装を目指し、飯田市との調整を行いながら、中心市街地活性化への貢献を図る。



図 47



図 48



図 49

図 47 ダイアグラム作成に向けて議論している様子

図 48 作成したダイアグラム

図 49 りんご並木検討委員会で発表している様子

②' ボラサイトのデザインの改善による新たなストリートファニチャーの開発と、丸の内仲通りでの実証実験を通じた更なる検証

昨年度から、ボラード(車止め)という単一機能の装置として使われてきた都市部材をリデザインし、新たな形のストリートファニチャーとして公共空間の豊かさの向上を図ることを目的として(株)サンポールと共同研究を行っている。今年度は、企業と連携を取りながら下記の2つの手法でデザイン・分析の両方の側面からボラードの新しいあり方を追求した。

これらの活動指針をもとに、「新しい時代のストリートファニチャー」の開発の検討とMSPでの実証実験からボラードの公共空間における可能性を探求した。

「新しい時代のストリートファニチャー」の開発では、ボラードの公共空間の賑わい創出に対して新たな役割の追求を目的である。また、MSPの実証実験では、これらの公共空間の創出に向けてボラードが生み出せる影響を実験として知見を集めることが目的である。MSP実証実験での分析で得た知見、それをもとにした「新しい時代のストリートファニチャー」の開発によるデザインの検討、この二つの取り組みを横断的に取り組み、更なる研究を進めている。

以下、2つの活動について詳細を記載する。

1. 「新しい時代のストリートファニチャー」の開発に向けた検討（'25年4月9日～）

昨年度のMSP 2025 Winterでは、機能を限定しないストリートファニチャーであるボラードの設置によって、利用者の多様なアクティビティが誘発されることが確認できた。この結果から、ボラードサイトの「拠り所」としての可能性を見出し、それについて(株)サンポールとともに検討を進めた。概要は下記の通りである。

「都市の止まり木」としての新しいデザイン検討
ボラードの「拠り所」としての性質を「止まり木」と例え、「都市の止まり木」としてのストリートファニチャーの新しいデザインを以下の2通りから検討した。

1. 付帯型(ボラード+止まり木)
2. 一体型(止まり木+ボラード)

これらのデザイン案の検討は、具体的に下記の手法により行った。

手法

「新しい時代のストリートファニチャー」を「ユーザーにアクティビティを誘発させるファニチャー」と定義し、様々なデザインの発展の可能性を見出すために「線材」、「面材」、「ボリューム」の3つの方向からアイデアを広げた。アイデア発展の軌跡としてのフローチャート(図46)・3Dプリンターを用いた10分の1模型を制作し、それをもとに株式会社サンポールとともに何度も議論を重ねた。また、「線材」、「面材」、「ボリューム」のアイデアを発展させるうえで、実際に人が使用したときの使い心地やデザイン性を具体的に想定する目的で実寸大のモックアップを作成した。モックアップをもとに研究室で議論を進め、デザインのディテールを調整しながら新たな発想の礎とした。

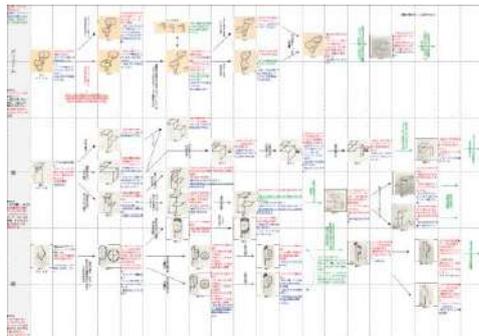


図 50



図 51



図 52

図 50 アイデア発展の軌跡としてのフローチャー
図 51 作成モックアップ例
図 52 モックアップを用いて議論している様子

打ち合わせ

- ・サンポール, 研究室二者間打ち合わせ実施。(6月30日)
座る機能を持つファニチャーの可能性について、付帯型・一体型両方の方針とデザインについて検討。
- ・サンポール, 研究室二者間打ち合わせ実施。(7月16日)
「新しい時代のストリートファニチャー」のデザイン案の提案と検討。

今後、上記と同様にデザイン・分析の両方の側面からボラードの新しいあり方を追求し、株式会社サンポールとともに公共空間を豊かにするストリートファニチャーの新しい可能性の議論を進め、実現を目指す。また、今までの活動から「線材」、「面材」、「ボリューム」の3つの形の形態的特徴が分かった。これらのデザインの発展の軌跡をフローチャートにまとめた。

「新しい時代のストリートファニチャー」の開発の活動はMSP 2025 winterの始動に伴って一時的に中止している状態であるが、来年も引き続きこのようなアプローチで実践的な取り組みも視野に入れながら実現を目指したい。

2. MSP 2025 Winter へのボラサイトの設置による、公共空間の利活用の可能性のさらなる検証

MSP 2025 Summer については、他イベントに伴うボラードの撤去や、検討していた他エリアの行政・警察との協議が難しい状況となり、実施を見送った。また、昨年度のMSP 2024 Winterの実証実験で得られたについて現在論文にまとめている段階であり、都市計画学会に投稿する予定である。

昨年度のMSP 2024 Winterに引き続き、今年度も丸の内仲通りで実施されるMSP 2025 Winterに向けて、実証実験の準備を進めた。昨年から発展した内容として、天板の大きさの違いによる利用者のアクティビティへの影響を調査するため、ボラサイトの天板サイズを450mmと900mmの2種類を設置した。利用者にとってより心地よい空間を創出するためにこの2種類を通りに対して斜めに配置し、それぞれのボラサイトの利用について昨年同様観察およびアンケート調査を行った。

実験では、450mm・900mmの天板のボラサイトにおいて利用目的自体には明確な差はみられなかったもののボラサイトの天板の形状によって利用者の立つ場所に傾向が出てくる可能性が高いと分かった。これは公共空間における偶発的コミュニケーションを誘致するデザイン要素になるのではないかとと言える。

調査目的

昨年度の実証実験で設置をした450mm天板のボラサイトに加え今回のMSP 2025 Winterでは、11月に新たに作成した900mm天板のボラサイトを昨年と同様にMSPで設置を行う。今回の実証実験においては、それらのボラサイトの実証実験からそれら2種類のボラサイトの利用動向および利用者の意識を調査することでそれらの差異を明らかにし、天板の大きさが人々の公共空間における行動に与える影響を調査する。そしてこの検証を通してこういったファニチャーが公共空間に与える影響を昨年度の調査に加えて比較することが目的である。



図 53



図 54



図 54

図 55

図 53 MSP 2025 Winter におけるアンケート調査の様子

図 54 利用の様子

図 55 450 mm天板のボラサイト本体

図 56 900 mm天板のボラサイト本体

打ち合わせ

- ・サンポール, MJD, 研究室 3 者打ち合わせ実施。(4 月 9 日)
MSP 2024 Winter での調査結果の共有と今後の展開について
- ・サンポール, MJD, 研究室三者間打ち合わせ実施。(6 月 30 日)
MSP 夏に向けた木製天板についての検証 (MSP 夏では実施環境の変化による利用者のふるまいの変化を検証)
- ・サンポール, 研究室二者間打ち合わせ実施。(7 月 16 日)
MSP 2025 Winter での検証内容と今後の方針。
- ・サンポール, MJD, 研究室三者間打ち合わせ実施。(8 月 25 日)
カウンターの形状・材質・機能に関する具体的検証方針
- ・サンポール, 研究室二者間打ち合わせ実施。(11 月 10 日)
- ・MSP2025Winter にて実証実験の実施(11 月 12 日~12 月 17 日)



図 57



図 58



図 59

図 56 大きさの異なる天板に関する議論の様子

図 57 天板の材質変更におけるモックアップ確認の様子

図 58 ボラサイト利用の調査報告の様子

実証実験では、ボラサイトを中心とした公共空間の賑わい創出の様子を定点観察とアンケートによって観察・記録する。今回の実験では主に 450mm 天板と 900mm 天板が誘致する人の行動の差異の分析を行なった。アンケートでは利用者の意識上で行われた 450mm 天板と 900mm 天板におけるアクティビティと使い心地を調査し、定点観察では利用者が無意識に行なった全てのアクティビティや利用時間を記録した。

今後は、これらの結果から、カウンター天板の大きさが公共空間に与える影響を明らかにし、ボラサイトや「新しいストリートファニチャー」のデザインをより発展させていく。さらに、ボラサイトの設置場所や設置の方向によって利用者の使い心地・使用方法にどのような差があったのかを考察し、ボラサイトの新たな設置場所を模索する。

③' 高輝度蓄光プレートの実装によるさらなる公共空間の可能性の検証

今年度は、1. 中野四季の森公園における蓄光ツールの恒久的活用に向けた検討、2. 長野県飯田市における蓄光ツールの段階的実装を通じて、蓄光ツールの実装による公共空間の安全性や景観への影響に配慮した恒久的な設置の可能性について検証を行った。

さらに、昨年度の活動では夜間の公共空間における人々の行動・心理の「エスコート」の需要、及び防災対策としての蓄光ツールの可能性を検証していたが、今年度は夜間に限らず日中利用も想定したフレキシブルなデザインの検討も行った。活動計画にて言及した「3. 夜間に限らず日中利用も想定したフレキシブルなデザインの検討」については、以下の2つの活動において実践を行った。

1. 中野四季の森公園における蓄光ツールの恒久的活用に向けた検討・実装

昨年度に得られた知見である「エスコート」「防災」「経験知」の3つのキーワードを基軸に、芝生養生期間のみならず、日常的にも利用可能なデザインの恒常化を目指し、中野区四季の森公園、および他防災公園にも活用可能な総合案内表示システムの構想を行った。



図 60



図 61

図 60, 図 61 蓄光を用いた総合案内表示システム

打ち合わせ

本提案の実装に向け、humorous 様と今後の方向性について、オンラインでの打ち合わせを実施した。（'25年5月15日～）

先方からは、前向きな反応と有意義なフィードバックをいただき、今後の各関係者との調整事項や、具体的な実装スケジュールに関する方向性について意見交換を行った。（図 62）



図 62

図 62 humorous 様との打ち合わせの様子

行政との調整状況および今後の方針

実現に向けて、中野区公園課および防災課との協議も並行して進めているが、複数回の打診にもかかわらず、現時点では十分な反応を得られていない状況にある。行政調整の進展を待ちながら、段階的な実装や他地域での応用を視野に入れて準備を継続している。

本年度中に中野区での恒久的な設置を行うことは難しいと判断し、助成金活用の重点を長野県飯田市での実地調査および関連プロジェクトの推進に置く方針とした。今後は、他フィールドで得られた成果や知見を再度東京へフィードバックし、次年度以降の社会実装に向けた協議に備えていく。

2. 長野県飯田市における蓄光プレートの段階的実装

('25年4月10日～)

今年度は、長野県飯田市のフィールドにて①春草通りの南北に位置する「さてらす」と「りてらす」への蓄光ロゴの設置、②春草通りへのデザイン蓄光の設置検討を段階的に行った。

これらの実施を通して、春草通りにおける①拠点の確立、②それぞれの拠点をつなぐ軸性の強化への効果を目指した。それぞれの取り組みを下記の通り示す。

①春草通りの南北に位置する「さてらす」と「りてらす」への蓄光ロゴの設置、効果検証

- ・ 昼間は通常案内サイン、夜は発光プレートとして機能するフレキシブルなデザインの検討、作成
- ・ 作成したロゴデザインによる蓄光ロゴの設置を行った(図)。(5月31日)
- ・ 蓄光ロゴの管理、効果検証を行った。(10月11日-12日)



図 63



図 64



図 65



図 66



図 67



図 68

- 図 63 「さてらす」ロゴ蓄光 昼の様子
- 図 64 「さてらす」ロゴ蓄光 夜の様子
- 図 65 「さてらす」ロゴ蓄光 外観
- 図 66 「りてらす」ロゴ蓄光 昼の様子
- 図 67 「りてらす」ロゴ蓄光 夜の様子
- 図 68 「りてらす」ロゴ蓄光 外観

②春草通りへのデザイン蓄光の検討

- ・春草通りにおける夜の現状分析・蓄光プレートの視認性を検証した。(10月11日-12日、10月18日-19日)
- ・設置に向けたハードルを把握するために、飯田市、橋北街づくり委員会へ企画説明を行った。(11月12日、12月12日)

今後は、春草通りへのデザイン蓄光の実装と同時に、それによる公共空間への可能性の検証を行う。



図 69

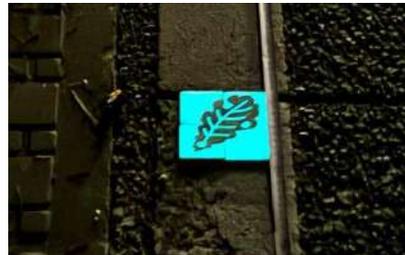


図 70



図 71

- 図 69 調査の様子
- 図 70 デザイン蓄光の見え方
- 図 71 春草通りへの設置検討

④' 今後の抱負について

今年度は、公共空間に対して、飯田市での活動では、空き家を活用したイベントおよび飯田市中心市街地の将来像の提案を通して、公共空間を含めた賑わい創出に貢献することができ、新たなストリートファニチャー開発での活動では、MSP 2025 Winter で得られたボラサイトのサイズによる利用者動向の変動や利用者の使い心地の観点から得られた知見を活かして、他地域での展開も視野に入れながら公共空間をより豊かにする「新しい時代のストリートファニチャー」の開発の礎を形成することができた。蓄光ツール実装での活動では、防災公園における蓄光ツールの恒久的活用に向けた総合案内表示システムの構想、および長野県飯田市における蓄光プレートの段階的実装を通して、日中・夜間ともに機能するフレキシブルなデザインの可能性を示すことができた。特に飯田市では、拠点施設への蓄光ロゴ設置により、拠点の確立と軸性の強化に向けた基盤を構築することができた。

以上の活動から得た知見を踏まえて、来年度は、各プロジェクトを横断することで多様なフィールドでの実装を行い、公共空間の新たな可能性の探求を目指す(図 72)。そして、本研究室と地域との連携のみならず、地域と地域をつなぐことを目指す。

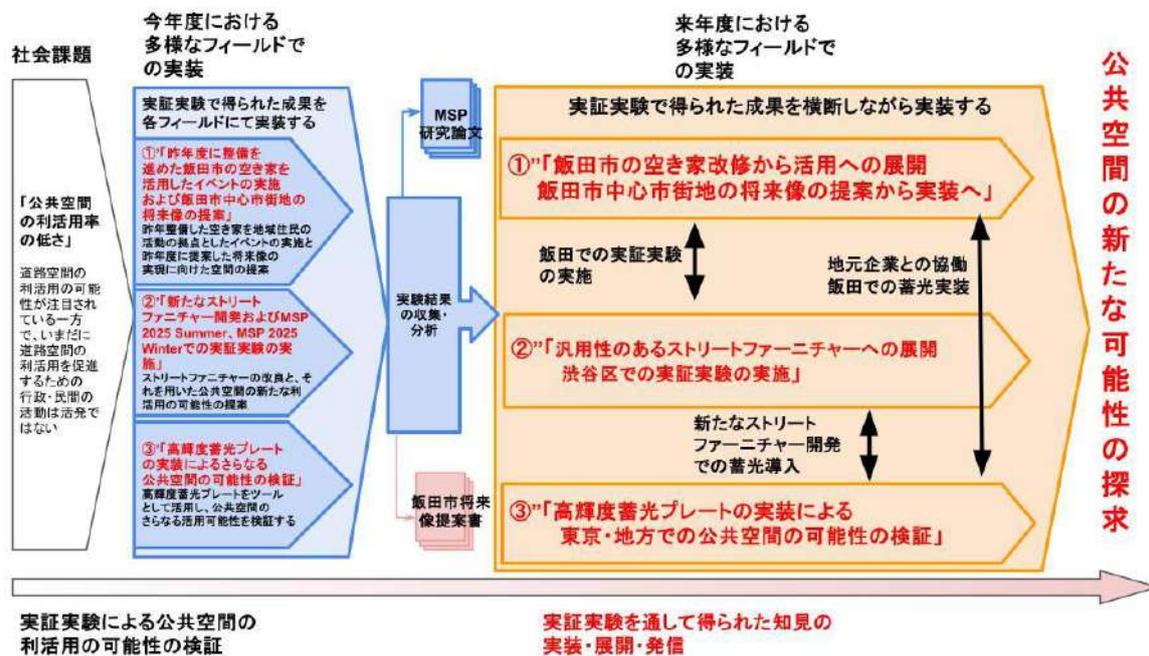


図 72 活動全体像 (青枠内が今年度の活動、オレンジ枠内が来年度の展望にあたる)

連携先からの一言/参加学生からの一言/参加者からの一言 (連携先又は参加学生からの一言の場合、所属と氏名をご記入ください。)

所属：

氏名：

(株)サンポール 様：産学官民の連携を通じて、都市空間における仮設を日常の仕組みとして成立させるための論点を具体的に整理できました。取り組みを進める中で他団体・他地域からの問い合わせもあり、社会的な関心と展開可能性のあるテーマだと実感しています。企業としても、実装条件（安全性、維持管理、費用負担、景観・利用者体験、合意形成等）を研究の視点と往復しながら検討できたことは大きな価値であり、関係者の皆様に感謝申し上げます。今後は継続的な設置・運用条件と評価指標を共同で深め、社会実装へつなげていきたいと考えています。

(同)nom 折山尚美様：地域の若者や高齢者を巻き込んだ講義やイベントを協働した開催を通して、地域の方々が自分ごととしてまちを考える機会が増え、旧測候所の活用も着実に進みました。今後も学生と協働し、飯田のこれからを共に考えていきたいです。

(株)humorous 田村様：研究室との連携により、中野セントラルパークでの実験や飯田での実装など、多様なフィールドで取り組みを展開できたことを大変嬉しく思っております。今後も、蓄光技術のさらなる可能性について、引き続き共に考えていければと思います。